

1

1 はじめに神は天と地とを創造された。
 2 地は形なく、むなしく、やみが淵のおもてにあり、神の
 霊が水のおもてをおおつていた。

3 神は「光あれ」と言われた。すると光があつた。

4 神はその光を見て、良しとされた。神はその光とやみと
 を分けられた。

5 神は光を昼と名づけ、やみを夜と名づけられた。夕とな
 り、また朝となった。第一日である。

6 神はまた言われた、「水の間におおぞらがあつて、水と
 水を分けよ」。

7 そのようになった。神はおおぞらを造つて、おおぞらの
 下の水とおおぞらの上の水とを分けられた。

8 神はそのおおぞらを天と名づけられた。夕となり、また
 朝となった。第二日である。

9 神はまた言われた、「天の下の水は一つ所に集まり、か
 わいた地が現れよ」。そのようになった。

10 神はそのかわいた地を陸と名づけ、水の集まつた所を海
 と名づけられた。神は見て、良しとされた。

11 神はまた言われた、「地は青草と、種をもつ草と、種類
 にしたがつて種のある実を結ぶ果樹とを地の上にはえ
 させよ」。そのようになった。

12 地は青草と、種類にしたがつて種をもつ草と、種類にし
 たがつて種のある実を結ぶ木とをはえさせた。神は見
 て、良しとされた。

13 夕となり、また朝となった。第三日である。

1

14 神はまた言われた、「天のおおぞらに光があつて昼と夜
 とを分け、しるしのため、季節のため、日のため、年
 のためになり、

15 天のおおぞらにあつて地を照らす光となれ」。そのよう
 になった。

16 神は二つの大きな光を造り、大きい光に昼をつかさどら
 せ、小さい光に夜をつかさどらせ、また星を造られ
 た。

17 神はこれらを天のおおぞらに置いて地を照らさせ、
 18 昼と夜とをつかさどらせ、光とやみとを分けさせられ
 た。神は見て、良しとされた。

19 夕となり、また朝となった。第四日である。

20 神はまた言われた、「水は生き物の群れで満ち、鳥は地
 の上、天のおおぞらを飛べ」。

21 神は海の大いなる獣と、水に群がるすべての動く生き物
 とを、種類にしたがつて創造し、また翼のあるすべて
 の鳥を、種類にしたがつて創造された。神は見て、良
 しとされた。

22 神はこれらを祝福して言われた、「生めよ、ふえよ、海
 の水に満ちよ、また鳥は地にふえよ」。

23 夕となり、また朝となった。第五日である。

24 神はまた言われた、「地は生き物を種類にしたがつてい
 だせ。家畜と、這うものと、地の獣とを種類にしたがつ
 ていだせ」。そのようになった。

25 神は地の獣を種類にしたがい、家畜を種類にしたがい、
 また地に這うすべての物を種類にしたがつて造られ
 た。神は見て、良しとされた。

26 神はまた言われた、「われわれのかたちに、われわれに
 かたどつて人を造り、これに海の魚と、空の鳥と、
 家畜と、地のすべての獣と、地のすべての這うものと
 を治めさせよう」。

27 神は自分のかたちに人を創造された。すなわち、神のか
 たちに創造し、男と女とに創造された。

28 神は彼らを祝福して言われた、「生めよ、ふえよ、地に
 満ちよ、地を従わせよ。また海の魚と、空の鳥と、地
 に動くすべての生き物とを治めよ」。

29 神はまた言われた、「私は全地のおもてにある種をもつ
 すべての草と、種のある実を結ぶすべての木とをあなた
 がたに与える。これはあなたがたの食物となるであ
 ろう」。

30 また地のすべての獣、空のすべての鳥、地を這うすべて
 のもの、すなわち命あるものには、食物としてすべて
 の青草を与える」。そのようになった。

31 神が造つたすべての物を見られたところ、それは、はな
 はだ良かった。夕となり、また朝となった。第六日で
 ある。

2

1 こうして天と地と、その万象とが完成した。

2 神は第七日にその作業を終えられた。すなわち、そのす
 べての作業を終つて第七日に休まれた。

3 神はその第七日を祝福して、これを聖別された。神がこ
 の日に、そのすべての創造のわざを終つて休まれたか
 らである。



2

- 4これが天地創造の由来である。
 主なる神が地と天とを造られた時、
 5地にはまだ野の木もなく、また野の草もはえていなかった。主なる神が地に雨を降らせず、また土を耕す人もなかったからである。
 6しかし地から泉がわきあがつて土の全面を潤していた。
 7主なる神は土のちりて人を造り、命の息をその鼻に吹きいれられた。そこで人は生きた者となった。
 8主なる神は東のかた、エデンに一つの園を設けて、その造った人をそこに置かれた。
 9また主なる神は、見て美しく、食べるに良いすべての木を土からはえさせ、更に園の中央に命の木と、善悪を知る木とをはえさせられた。
 10また一つの川がエデンから流れ出て園を潤し、そこから分れて四つの川となった。
 11その第一の名はピソンといい、金のあるハビラの全地をめぐるもので、
 12その地の金は良く、またそこはブドラクと、しまめのうとを産した。
 13第二の川の名はギホンといい、クシの全地をめぐるもの。
 14第三の川の名はヒデケルといい、アッスリヤの東を流れるもの。第四の川はユフラテである。

2

- 15主なる神は人を連れて行つてエデンの園に置き、これを耕させ、これを守らせられた。
 16主なる神はその人に命じて言われた、「あなたは園のどの木からでも心のままに取つて食べてよろしい。
 17しかし善悪を知る木からは取つて食べてはならない。それを取つて食べると、きつと死ぬであろう」。
 18また主なる神は言われた、「人がひとりでいるのは良くない。彼のために、ふさわしい助け手を造ろう」。
 19そして主なる神は野のすべての獣と、空のすべての鳥とを土で造り、人のところへ連れてきて、彼がそれに見える名をつけるかを見られた。人がすべて生き物に見える名は、その名となるのであった。
 20それで人は、すべての家畜と、空の鳥と、野のすべての獣とに名をつけたが、人にはふさわしい助け手が見つからなかった。
 21そこで主なる神は人を深く眠らせ、眠つた時に、そのあばら骨の一つを取つて、その所を肉でふさがれた。
 22主なる神は人から取つたあばら骨でひとりの女を造り、人のところへ連れてこられた。
 23そのとき、人は言った。「これこそ、ついに私の骨の骨、私の肉の肉。
 24男から取つたものだから、これを女と名づけよう」。
 24それで人はその父と母を離れて、妻と結び合い、一体となるのである。
 25人とその妻とは、ふたりとも裸であったが、恥ずかしいとは思わなかった。



21

1 私はまた、新しい天と新しい地とを見た。先の天と地とは消え去り、海もなくなってしまうた。
2 また、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために着飾った花嫁のように用意をととのえて、神のもとを出て、天から下って来るのを見た。

3 また、御座から大きな声が叫ぶのを聞いた、「見よ、神の幕屋が人と共にあり、神が人と共に住み、人は神の民となり、神自ら人と共にいまして、
4 人の目から涙を全くぬぐい去って下さる。もはや、死もなく、悲しみも、叫びも、痛みもない。先のものが、すでに過ぎ去ったからである」。
5 すると、御座にいますかたが言われた、「見よ、私はすべてのもを新たにする」。また言われた、「書きしるせ。これらの言葉は、信すべきであり、まことである」。
6 そして、私に仰せられた、「事はすでに成った。私は、アルパでありオメガである。初めであり終りである。かわいている者には、いのちの水の泉から価なしに飲ませよう。
7 勝利を得る者は、これらのものを受け継ぐであろう。私は彼の神となり、彼は私の子となる。
8 しかし、おくびような者、信じない者、忌むべき者、人殺し、姦淫を行う者、まじないをする者、偶像を拝む者、すべて偽りを言う者には、火と硫黄の燃えている池が、彼らの受くべき報いである。これが第二の死である」。

21

9 最後の七つの災害が満ちている七つの鉢を持っていた七人の御使のひとりがきて、私に語って言った、「さあ、きなさい。小羊の妻なる花嫁を見せよう」。
10 この御使は、私を御霊に感じたまま、大きな高い山に連れて行き、聖都エルサレムが、神の栄光のうちに、神のみもとを出て天から下って来るのを見せてくれた。
11 その都の輝きは、高価な宝石のようであり、透明な碧玉のようであった。
12 それには大きな、高い城壁があつて、十二の門があり、それらの門には、十二の御使がおり、イスラエルの子らの十二部族の名が、それに書いてあつた。
13 東に三つの門、北に三つの門、南に三つの門、西に三つの門があつた。
14 また都の城壁には十二の土台があり、それには小羊の十二使徒の十二の名が書いてあつた。
15 私に語っていた者は、都とその門と城壁とを測るために、金の測りざおを持っていた。
16 都は方形であつて、その長さと幅とは同じである。彼がその測りざおで都を測ると、一万二千丁であつた。長さと幅と高さととは、いずれも同じである。
17 また城壁を測ると、百四十四キュビトであつた。これは人間の、すなわち、御使の尺度によるのである。
18 城壁は碧玉で築かれ、都はすきとおつたガラスのような純金で造られていた。
19 都の城壁の土台は、さまざまな宝石で飾られていた。第一の土台は碧玉、第二はサファイヤ、第三はめのう、第四は緑玉、
20 第五は縞めのう、第六は赤めのう、第七はかんらん石、第八は緑柱石、第九は黄玉石、第十はひすい、第十一は青玉、第十二は紫水晶であつた。
21 十二の門は十二の真珠であり、門はそれぞれ一つの真珠で造られ、都の大通りは、すきとおつたガラスのような純金であつた。



21

22 私は、この都の中には聖所を見なかった。全能者にして主なる神と小羊とが、その聖所なのである。
23 都は、日や月がそれを照らす必要がない。神の栄光が都を明るくし、小羊が都のあかりだからである。
24 諸国民は都の光の中を歩き、地の王たちは、自分たちの光栄をそこに携えて来る。
25 都の門は、終日、閉ざされることはない。そこには夜がないからである。
26 人々は、諸国民の光栄とほまれとをそこに携えて来る。
27 しかし、汚れた者や、忌むべきこと及び偽りを行う者は、その中に決してはいれない。はいれる者は、小羊のいのちの書に名をしるされている者だけである。

22

1 御使はまた、水晶のように輝いているいのちの水の川を私に見せてくれた。この川は、神と小羊との御座から出て、
2 都の大通りの中央を流れている。川の両側にはいのちの木があつて、十二種の実を結び、その実は毎月みり、その木の葉は諸国民をいやす。
3 のろむべきものは、もはや何ひとつない。神と小羊との御座は都の中であり、その僕たちは彼を礼拝し、
4 御顔を仰ぎ見るのである。彼らの額には、御名がしるさされている。
5 夜は、もはやない。あかりも太陽の光も、いらぬ。主なる神が彼らを照し、そして、彼らは世々限りなく支配する。

22

6 彼はまた、私に言った、「これらの言葉は信ずべきであり、まことである。預言者たちのたましいの神なる主は、すぐにも起るべきことをその僕たちに示そうとして、御使をつかわされたのである。
7 見よ、私は、すぐに来る。この書の預言の言葉を守る者は、さいわいである」。
8 これらのことを見聞きした者は、このヨハネである。私が見聞きした時、それらのことを示してくれた御使の足もとにひれ伏して拝そうとすると、
9 彼は言った、「そのようなことをしてはいけない。私は、あなたや、あなたの兄弟である預言者たちや、この書の言葉を守る者たちと、同じ仲間である。ただ神だけを拝しなさい」。
10 また私に言った、「この書の預言の言葉を封じてはならない。時が近づいているからである。
11 不義な者はさらに不義を行い、汚れた者はさらに汚れたことを行い、義なる者はさらに義を行い、聖なる者はさらに聖なることを行うままにさせよ」。
12 「見よ、私はすぐに来る。報いを携えてきて、それぞれに聖なることを行うままにさせよ」。
13 私はアルパであり、オメガである。最初の者であり、最後の者である。初めであり、終りである。
14 いのちの木にあずかる特権を与えられ、また門をとつて都にはいるために、自分の着物を洗う者たちは、さいわいである。
15 犬ども、まじないをする者、姦淫を行う者、人殺し、偶像を拝む者、また、偽りを好みかつこれを行う者はみな、外に出されている。
16 私イエスは、使をつかわして、諸教会のために、これらのことをあなたがたにあかしした。私は、ダビデの若枝また子孫であり、輝く明けの明星である」。
17 御霊も花嫁も共に言った、「きたりませ」。また、聞く者も「きたりませ」と言いなさい。かわいている者はここに来るがよい。いのちの水がほしい者は、価なしにそれを受けるがよい。
18 この書の預言の言葉を聞くすべての人々に対して、私は警告する。もしこれに書き加える者があれば、神はその人に、この書に書かれてある災害を加えられる。
19 また、もしこの預言の書の言葉をとり除く者があれば、神はその人の受くべき分を、この書に書かれているいのちの木と聖なる都から、とり除かれる。
20 これらのことをあかしするかが仰せになる、「しかし、私はすぐに来る」。アマメン、主イエスよ、きたりませ。
21 主イエスの恵みが、一同の者と共にあるように。

